

海外映画祭出品等支援事業【平成31年度政府予算額：65百万円（64百万円）】
 若手映画作家等の育成【平成31年度政府予算額：165百万円（164百万円）】
 ロケーションに係るデータベースの運営【平成31年度政府予算額：30百万円（16百万円）】
 日本映画製作支援事業【平成31年度政府予算額：740百万円（734百万円）】

日本映画の振興に係る課題

《未来投資戦略2018》

・国内外の作品の撮影環境の改善を図るとともに、国際共同製作の基盤整備、映画祭を通じた日本映画等への関心の掘り起こし等を行う。

・国際文化交流を通じた日本文化の発信事業等により、国家ブランディングへの貢献を図る。

《知的財産計画2018》

・我が国における映画のロケ等の環境整備を図る。

・新進的な映画を興行につなげていくための支援のあり方について検討を行うとともに、海外での日本映画祭開催及び日本映画上映機会の維持・強化を図る。

・ワークショップや実際の短編映画作品の制作を通して、若手映画作家等に映画制作に必要な技術・知識の習得機会を提供することによって若手映画作家の育成を図るとともに、映画製作現場における学生の実習（インターンシップ）受け入れの支援を行う。

《Society 5.0 に向けた人材育成》

・文化芸術分野での活躍を希望する若者が将来のキャリアを描けるような人材育成を行う必要がある。

○ 映画製作実地研修の場を提供するなどして、我が国の次代を担う若手映画作家等の育成を図るとともに、映画製作支援や国際交流等を通じた、多様で、優れた日本映画や国際共同製作映画の製作を促進し、併せて、海外へ発信することで、次代の日本映画の国際評価の向上等を図る。

- 若手映画作家等の映画製作実地研修
- 日本映画の製作支援
- 若手映画作家の国際交流や海外発信

○ ロケーションデータベース（J L D B）の改修や地域のフィルムコミッション（F C）の体制強化を支援し、国内の撮影環境の充実を図る。

- 映画製作者等のためのJ L D Bの改修
- 全国 F Cの体制強化に繋がる情報発信

事業内容・計画

日本映画の創造振興プラン

創造

日本映画製作支援事業【740百万円】

優れた日本映画や国際共同製作映画の製作活動に対する支援

交流

文化庁映画週間【24百万円】

- ・日本映画界で顕著な業績をあげた者の顕彰
- ・優れた文化記録映画作品の顕彰及び上映会 等

人材育成

若手映画作家等の育成【165百万円】

若手映画作家等による、映画製作を通じた技術・知識の習得機会の提供や、映画製作の各過程を担う専門人材を育成。

- ・本事業による短編映画製作経験のある若手映画監督に対し、**長編映画製作の実地研修を実施。**
- ・映画製作の現場において、映画制作の各過程を担う専門性の高い若手映画スタッフを育成。

発信

国際映画祭支援事業【70百万円】

東京国際映画祭を支援することで、日本映画の国際競争力を高め、積極的に世界へ発信する。

海外映画祭への出品等支援【65百万円】

- ・日本映画の海外映画祭への出品等に対する支援。
- ・国際映画祭の開催地等において、海外で活躍している映画関係者と日本の次代を担う映画監督等との**人材交流等を実施。**

アジアにおける日本映画特集上映事業【63百万円】

アジア諸国において日本映画の特別上映や人材育成につながる交流事業を実施。

「日本映画情報システム」の整備【6百万円】

日本映画に関する情報を集約したデータベースを作成しインターネット上で公開。

ロケーションに係るデータベースの運営【30百万円】

ロケ地情報の発信とともに、撮影環境の充実のため、**全国F Cの体制の強化を図る。**

映画フィルムの保存・活用

※運営費交付金の内数

国立映画アーカイブを中心とした、映画フィルムのデジタル保存・活用等、映画分野における緊急的活重点的な取り組みに対して支援。

- ・映画フィルムのデジタル保存・活用等
- ・映画関連資料の保存活用等
- ・新進的な映画や若手クリエイターの作品等の発信等
- ・訪日外国人等に対する映画の多言語字幕上映等

次代に繋がる、多様で、優れた、世界に誇る新たな日本映画の創出

海外アートフェア等参加・出展等【平成31年度政府予算額：96百万円（96百万円）】

我が国におけるアート振興のための基盤の整備と日本作家及び現代日本アートの国際的な評価を高めていく活動を展開し、世界のアート市場規模に比して小規模にとどまっている我が国アート市場の活性化と我が国アートの持続的発展を可能とするシステムの形成を目指す。

日本のアート市場の規模は、その経済的実力（GDP世界第3位、富裕層の数世界第2位）に比して小規模＝成長余力を秘めている
 ※オークションセールスでは世界第7位、アート市場全体ではランキング外

現代日本アート作家・作品の国際的な評価を高める取組を通じ、作品の国際市場における評価向上と国内市場の活性化につなげ、優れた作品の次世代への継承と次世代作家の育成に資する。

アート・プラットフォームの形成 96百万円（95百万円）

世界における現代日本アートの価値評価向上に取り組むための情報・人的基盤を形成し、国際的な評価を高めていく上で欠かせない評論活動等の活発化、海外への効果的な発信手法の開発、美術品評価やアート市場の活性化システムの形成に向けた実践的研究等に取り組み、世界のアートシーンでの日本のプレゼンス向上を目指す。

①アート・プラットフォーム形成事業

- アートシーンに関する動向調査／○海外関係者とのネットワークの構築
- 美術館や評論、市場等、幅広い関係者の連携協力体制の構築
- 現代日本アートの国際的評価を高める海外有力美術館における展覧会の企画
- 現代アートの収蔵情報のネットワーク化に向けた検討・考察
- 美術品評価の基盤整備／○アート市場の活性化システムの形成に向けた検討 等

②現代アートの国際展開シンポジウムの開催

③現代アートの国際展開に関する調査研究の実施

米国での展覧会を機に国際的な評価が高まった「具体」、「もの派」や、草間、奈良、村上に続く、日本作家・作品の国際的評価を高める取組が急務



【白髪一雄「経過険路」(1982)】

日本アートの国際発信力強化 96百万円（96百万円）

我が国に世界のトップ層を惹きつけ、日本が世界有数のアート発信拠点へと成長するための取り組みと若手作家を含めた現代日本作家の飛躍を後押しする個展等による国際発信を強化するとともに、海外の主要アートフェアや国際展での発信支援など、現代日本アートの国際的評価を高める取り組みを強化する。

①国際拠点化・現代作家発信推進企画展

②海外アートフェア等参加・出展等



【アートフェア会場（Art Basel）】

現代日本アートの国際的評価と芸術的価値の向上を通じた文化芸術立国の実現へ

世界に羽ばたく次世代を担う芸術家の養成



昭和42年度より実施
平成29年度までに約3,500名が制度を活用
(平成13年度までは、芸術家在外研修事業により実施)

【派遣実績】

平成23年度 64名、平成24年度 85名、平成25年度 78名
平成26年度 80名、平成27年度 83名、平成28年度 73名
平成29年度 83名

我が国の将来の文化芸術の振興を担う人材を育成するため、美術、音楽、舞踊、演劇、映画、舞台美術等、メディア芸術の各分野の若手芸術家等に、海外で実践的な研修に従事する機会を提供する。

【研修期間】 1年（350日～200日、高校生研修含む）
2年（700日）、3年（1,050日）
特別（80日）
短期（20～40日）の5種類

【支給対象】 往復航空運賃・支度料・滞在費（日当・宿泊料）

＜これまでの主な派遣者＞

奥谷 博（美術：洋画）	昭和42年度
絹谷幸二（美術：洋画）	昭和52年度
佐藤しのぶ（音楽：声楽）	昭和59年度
諏訪内晶子（音楽：器楽）	平成 6年度
森下洋子（舞踊：バレエ）	昭和50年度
野田秀樹（演劇：演出）	平成 4年度
野村萬斎（演劇：狂言師）	平成 6年度
崔 洋一（映画：監督）	平成 8年度
鴻上尚史（演劇：演出）	平成 9年度
平山素子（舞踊：モダンダンス）	平成13年度
酒井健治（音楽：作曲）	平成16年度
長塚圭史（演劇：演出）	平成20年度
萩原麻未（音楽：ピアノ）	平成21年度

文化遺産オンライン構想の推進【平成31年度政府予算案額：50百万円（50百万円）】

概要

我が国の多様な文化遺産に関する情報を、誰もがいつでも容易にアクセスできる環境を整備し、文化の保存・継承・発展を図り、コンテンツの利活用や情報発信を進めるため、文化遺産のデジタルアーカイブ化を推進

このため、全国の博物館・美術館等におけるデジタルアーカイブ化を促進するとともに、それらの情報を集約し、求める情報を容易に検索できる機能を持ったポータルサイト「文化遺産オンライン」を構築（主に以下の情報を収集）

全国の博物館・美術館等の所蔵品（国宝・重要文化財を含む）

国指定文化財（建造物、史跡名勝天然記念物、無形文化財、民俗文化財等）

機能（所蔵作品の紹介）

情報を提供する博物館・美術館の所蔵品を含め、文化遺産オンラインの全ての情報を検索できる

Y 掲載件数：261,068件

Y 提供館数：193館

機能（動画で見る無形の文化財）

伝統工芸・民俗芸能などの無形文化財の動画を公開（工芸技術記録映画等）
例）「蒔絵 - 寺井直次の卵殻のわざ -」（約10分）

機能（美術館・博物館情報）

全国の美術館・博物館の所在地・ホームページURL等の情報を掲載

Y 掲載館数：1,004館

数値はいずれもH30年12月時点



博物館・美術館

情報登録

博物館・美術館

連携

国立国会図書館サーチ

検索・閲覧

これまでの主な取組

【参加館の利便性向上】

- ・作品を登録した参加館が、自館のサーバにデータベースを用意することなく、登録作品を自館のホームページ等から検索して閲覧できる機能。
- ・作品を登録した参加館が、文化遺産オンラインのサーバ上にそれぞれの館ごとに個別のウェブページを作成し、所蔵品などの情報を公開できる機能。各館の独自ホームページとしても活用できる。

【他機関との連携】

- ・国立国会図書館サーチと文化遺産オンライン（国指定等文化財に係るデータ）のAPI連携を開始（H30年3月より）
- ・文化遺産オンラインとCoIBase（国立博物館所蔵品統合検索システム）とのAPI連携を開始（H30年3月より）

今後の取組

- ・参加館とともに、利用者への利便性向上のための取組を進めていく。

動画・高精細画像等の掲載機能を追加するとともに、スマートフォンやタブレットなどのモバイル端末への対応、多言語対応を目指していく。

- ・併せて、文化財分野の他のデータベースとの連携にも努めていく。

■ 経済財政運営と改革の基本方針2018（平成30年6月15日閣議決定）

- ・「我が国の観光の魅力を、国内外の拠点を活用し、効果的に発信するほか、ビザの戦略的緩和、MICE誘致等に取り組む。」
- ・「映画のロケ誘致やアート市場の活性化に向けた検討などを進めるとともに、文化プログラムの全国展開、日本遺産の認定・活用や国際博物館会議（ICOM）京都大会2019の開催等を通じて日本文化の魅力や日本の美を国内外に発信する。」

事業概要

■ 目的・要旨

昭和26年から開始。文化庁と、国内の複数の美術館・博物館との連携の下、国宝・重要文化財をはじめとする我が国の質の高い文化財を海外で企画・展示し、歴史的・学術的な魅力も含め紹介することを目的とする。

また、展覧会を通じて、我が国の学芸員の国際発進力の向上と共に、昨今減少傾向にある諸外国の日本美術研究者との研究成果発表の機会として資するようなものを対象とする。



「縄文展」（平成30年度） 安倍首相・アズレーユネスコ事務総長の視察

■ 事業内容・計画

◆ 日本古美術海外展（30年度対応）

① ウェールズ・カーディフ「今・昔 日本のアート&デザイン展」

会期：6月16日～9月9日 会場：ウェールズ国立博物館
作品：江戸図屏風、重文「色絵若松図茶壺」など約100点
備考：明治150年記念、ウェールズ国内で初の文化庁海外展

② スイス・チューリッヒ「長澤蘆（ろ）雪（せつ）—18世紀日本のアバンギャルド展」

会期：9月6日～11月4日 会場：リートベルク美術館
作品：重文・紙本墨画「虎図」など約100点
備考：海外で長澤蘆雪が大々的に紹介される初めての展覧会

③ ロシア・モスクワ「江戸絵画展」

会期：9月3日～10月28日 会場：プーシキン美術館
作品：重文「風神雷神図屏風」、国宝「納涼図屏風」など約100点
備考：ロシアにおける日本年事業
ロシア国内で初の文化庁海外展

④ フランス・パリ「縄文展」

会期：10月16日～12月8日 会場：日本文化会館
作品：国宝「土偶」、国宝「深鉢形土器」など約50点
備考：ジャポニスム2018事業（国際交流基金との連携）

◆ 文化財の海外交流の推進（31年度以降の対応）

① アメリカ・サンフランシスコ「日本の人間国宝展（仮称）」

会期：6月～8月末 会場：サンフランシスコ・アジア美術館
作品：生野祥雲斎（重要無形文化財（竹芸）の保持者）の作品など100点